

作業名 (機械・設備)	危険性又は有害性と発生のおそれのある災害	既存の災害 防止対策	リスクの見積り			リスク低減措置案			措置案想定リスクの見積り			備考
			頻度	可能性	重篤度	頻度	可能性	重篤度	頻度	可能性	重篤度	

設備保全

点検作業	作業者が、貯水槽の点検ではしごを降りているとき、履物の底が滑りやすい素材だったので、足を滑らせて転落し、腰を強打する。	安全教育	2	2	6	III (10)	耐滑性安全靴の使用	1	1	6	II (8)	
点検作業	作業者が、地下倉庫の天井裏で空調ダクト内ブラスターコイルの点検をしているとき、化粧ボードに直接乗ったために踏み抜いて転落し、全身を打撲する。	作業手順書	1	4	10	IV (15)	作業開始前の安全確認徹底 (移動時の動線確保、足場の強度確認等)	1	2	10	IV (13)	
点検作業	作業者が、電気設備の点検をしているとき、回路を切らなかったため、遠方操作をされて電源が入り、感電する。	作業手順書	2	6	10	IV (18)	・作業手順の再教育と遵守徹底 ・回路を開く	1	1	10	IV (12)	※ 感電防止用帽、電気用ゴム手袋、絶縁靴、絶縁服
点検作業	作業者が、暖房・給湯設備の保守・点検に際し、高温部に接触して火傷する。	安全教育	2	2	6	III (10)	・高温部危険箇所の周知徹底 ・注意喚起の表示	1	1	6	II (8)	※ 手袋

警備防災

警備防災	警備員が、夜間の巡回をしているとき、足元が暗かつたので、階段を踏み外して転落し、足を骨折する。	懐中電灯の携帯	1	2	6	III (9)	・手すりの設置 ・充分に足元を確認しての巡回指導	1	1	6	II (8)	
警備防災	警備員が、冬期間、屋外の夜間巡回をしているとき、地面が凍結していたため滑って転倒し、氷結路面で打撲する。	作業手順書	2	4	6	IV (12)	凍結が予想される時は滑り止め等の安全措置	1	2	6	III (9)	※ 耐滑性安全靴
警備防災	警備員が、駐車車両をバックで出庫させる際、後退しながらの誘導であったため、歩道の縁石に気が付かずにつまずいて転倒し、打撲する。	作業手順書	2	2	3	II (7)	後ろ向き誘導は避ける	1	1	3	I (5)	・誘導車両と他の車両及び人との危険は常に発生する
警備防災	警備員が、屋外駐車場で出入車の誘導中、一旦停止中の車が突然動き出し、体に接触して腰を強打する。	作業手順書	1	6	10	IV (17)	車両の前後には立たない	1	2	10	IV (13)	

リスクアセスメントの実施事例（労働衛生：暑熱）

作業名 (機械・設備)	危険性又は有害性と発生のおそれのある災害	既存の災害 防止対策	リスクの見積り			リスク低減措置案	措置案想定リスクの見積り			備考
			有害性レベル	作業の程度	リスク		有害性レベル	作業の程度	リスク	
清掃作業	作業者が炎天下での屋外作業をしたとき、熱中症になる。	衛生教育	A	高代謝	高	水分補給 ・夕方の涼しい時間に変更 ・適切な休憩時間	C	高代謝	高	

(注) リスク評価を有害性と作業の程度（代謝率）で評価した事例です。

※印は、残留リスクに対する保護具の一例です。